

2014年9月10日

当協会機関誌 The Record(2014年9月号) 本日発行
特集記事は「ハイレゾ」が紡ぐ音楽風景

本日、当協会は機関誌「TheRecord」2014年9月号を発行いたしました。

今回の特集は「ハイレゾ」。CD 誕生から 32 年、この間デジタル技術の進化とともに変革を続けてきた音楽配信市場は、スマートフォンの普及等を追い風に、サブスクリプション型ストリーミングサービスが近年順調に伸びつつあります。

また一方で、音質にこだわる「ハイレゾ配信」も、ハード・ソフトともに相次ぐ本格参入が展開され、普及の兆しが見えつつあります。今号の特集記事では、アーティスト、配信プラットフォーム制作、スタジオエンジニアといった、最前線の現場で活躍される方々にお話をうかがい、その魅力に迫ります。

The Record (2014年9月号)

[特集記事] 「ハイレゾ」が紡ぐ音楽風景 ～Don't think, feel.

INTERVIEW 01 くるり 岸田繁 氏、佐藤征史 氏

INTERVIEW 02 ビクターエンタテインメント ビクタースタジオ(VICTOR STUDIO HD-Music.)

INTERVIEW 03 株式会社レーベルゲート(mora～WALKMAN®公式ミュージックストア～)

INTERVIEW 04 株式会社ソニー・ミュージックコミュニケーションズ
レコーディング & マスタリングエンジニア 鈴木浩二 氏

なお、本特集記事のリードページをご参考までに添付いたします。本ページを含めた機関誌9月号は下記URLよりご覧いただけますので、是非ご一読ください。

(URL) <http://www.riaj.or.jp/issue/record/latest/>

以上

★この件のお問い合わせは、広報部丹野、見世まで(email) tanno@riaj.or.jp

「ハイレゾ」が紡ぐ音楽風景 ～ Don't think, feel.

音は姿形がなく、目に見えない存在である — とは言え、ヒグラシの鳴き声や風鈴の音色を耳にすれば夏の夕暮れを思い、同時にスイカ、枝豆…と視覚や嗅覚、味覚までフル活用した脳内連想ゲームがはじまる。音楽もまた然り、アーティストが作品に込めた心情とリスナー個人の情景や想念などが結びつき、感動の扉が開かれる。歌はダイレクトに心を繋ぐ。

感動を呼び起こす脳のメカニズムについては「ハイパーソニック・エフェクト」（人の耳では聞こえない超高周波音を、実は人間は身体全体で受け入れ、それにより脳が活性化し精神や肉体にポジティブな影響を与える現象）の研究が進められているという。

人の可聴帯域は20kHzまで、耳に聞こえない音はカットし収められているのがCDである。ところが音楽、自然音など人間の知覚の範囲外にも、生の音は多数存在し溢れている。人間は、知覚の限界を超えた音も含まれる空間に身を置けば、本来聞こえないはずの音も感覚として捉え感じ、その豊かなサウンドに感動する～ CDとライブで受ける感動の違いを思えば納得がいく。

そこで、「ハイレゾ」である。CDではカットされる高周波も含むハイレゾは、表現の幅が広がり音楽自体が持つポテンシャルを最大限に発揮する存在と言えよう。アーティストが精魂込め仕上げたサウンドそのままを直送便の如くリスナーに届けることが可能な時代が到来した。体験した人々が次々に開眼するという生身の空気感・スケール感を全身で浴び、その芳醇な音楽世界を味わっていただきたい。

ハイレゾ音源とは？

ハイレゾ=High (高) Resolution (解像度)
音楽CD (44.1kHz/16bit) の特性を上回る情報量を有する音源。そのきめ細やかな音は、CDでは表現ができなかった録音スタジオやコンサートホールで聴いているかのような空気感、臨場感を忠実に再現する事が可能である。

CDとの比較

種類	サンプリング周波数	量子化ビット数	1秒間の情報量	CDとの差
音楽CD	44.1kHz	16bit	1411.2kbps	1.0倍
ハイレゾ音源	96kHz	24bit	4608kbps	3.3倍
ハイレゾ音源	192kHz	24bit	9216kbps	6.5倍



ハイレゾは音楽の伝える力を、
高めてくれる。

この魅力的なフォーマットを、
音楽業界全体で広げていけるといい。

INTERVIEW → 01

くるり

1996年の結成以来、古今東西さまざまな音楽を組み入れ、多彩な音楽の創造を続けてきたバンド、くるり。彼らは今年の4月、ハイレゾ音源でシングル2曲（ロックンロール・ハネムーン、ロックンロール・ハネムーンtofubeat remix）の配信をスタートした。

くるりが音楽を届ける手段として、ハイレゾのフォーマットを選んだ理由とは何か。そして、ハイレゾがもたらすものを、どうとらえているのか。

メンバーの岸田繁氏（写真左）、佐藤征史氏（同右）のお二人に、ハイレゾに触れたきっかけから、その魅力やインパクト、期待感などを含め、ハイレゾへの熱い思いを存分に語っていただいた。